

10905その他の窯業における死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2018	1	7 ~ 8	屋根の雪降ろしをするため、場内を確認するため、駐車場を歩いているときに、アスファルトの路面が凍結していることに気付かず、足を滑らせ仰向けに転倒し、肋骨を折った。	27	2	719	30 ~ 49 人
2	2018	4	8 ~ 9	事業部の第2工場内にて、回転式粉砕機の粉末の目詰まりを解消するために、掻き落とし棒（鉄製の棒）で粉を掻き落としていたところ、棒を奥まで入れすぎたため、棒が回転式粉砕機に巻き込まれ、その反動、衝撃で右手親指付け根を骨折した。	26	4	162	30 ~ 49 人
3	2018	5	20 ~ 21	道具選別場にて、瓦の選別・梱包作業中、梱包する結束機の、テープのねじれ不具合が発生しテープの入れ直しをするため右手をテープ挿入口に突っ込んだ瞬間、反対側にある回転中のプーリーとVベルトとの間に手袋が引き込まれ、続いて右手人差し指と中指の先端が挟まれ負傷した。	40	7	169	30 ~ 49 人
4	2018	5	11 ~ 12	工場で瓦の原材料である粘土を処理するためのベルトコンベアーを監視する作業中、処理が終わりコンベアーに付いた粘土を掃除しようとして、右手をコンベア側面についたとき、右手袖口のボタンが外れていたため袖口がコンベアに巻き込まれ、右腕がコンベアとベルトの間に挟まれた。	42	7	111	1 ~ 9 人
5	2018	6	16 ~	被災者が台車からタイルを下ろしていたとき、同僚が台車を移動させることを被災者に伝えたが、被災者が誤って台車近くに立ち入り、車	25	7	362	10 ~

			17	体に足首を巻き込まれた。				29 人
6	2018	6	10 11	粘土供給ベルトコンベアで、溢れた粘土がベルトコンベアのドラムに貼り付き、ベルトが蛇行したため作業員3名で修理を行った。被災者は粘土を掻き出す係、社員Aは制御盤を操作する係、社員Bは被災者からの操作指示を携帯電話で社員Aに伝える係となった。3人はそれぞれの姿を目視できない位置にいたため、被災者が回転と停止を繰り返しながら粘土を手で掻き出すときに3人の連携が合わず、動き出したベルトコンベアに左腕が巻き込まれた。	49	7	224	10 ～ 29 人
7	2018	6	23 24	作業場で、白地搬送機を飛び越えようとして、着地時に左足をひねって転倒した。	50	3	417	30 ～ 49 人
8	2018	7	9 10	工場内で、コンクリート製品の型枠を緩めるため、鉄パイプの治具で緩めようとしたところ、腰椎を骨折した。	55	19	364	10 ～ 29 人
9	2018	8	8 9	窯から出たばかりの、コンテナに積まれた瓦を冷ます作業を2台の扇風機を使って行っていたが、扇風機の向きを変えるときに、足下がふらつき、そのまま後ろに倒れて後頭部を強打した。	66	2	417	10 ～ 29 人
10	2018	10	8 9	会社敷地内の乾燥工場では原料の製作中、原料ホッパー下のベルトコンベアに原料がこぼれ落ちたため、左手で取り除こうとしたところ、作業着の袖が吸い込まれ、左腕を負傷した。	56	7	224	30 ～ 49 人
11	2018	11	10	工場作業場で、脚立を使用して瓦を運搬していた。脚立から下りる際にバランスを崩し、左足をひねって着地し、膝を負傷した。	40	1	371	1 ～ 9

			11							人
12	2018	12	11 ～ 12	工場でパレット移載機下部のスライドプレッシャーに異常が発生したため、3名で異常対策の処理を行っていた。そのうちの1名が、機械作動指示をせずに機械を作動したため、位置ズレに対処していた被災者が、パレット移載機とクランプ枠に挟まれ、右腕と左腰部に打撲を負った。	64	7		169		10 ～ 29 人
13	2018	12	9 ～ 10	瓦をくくる結束ラインで、瓦が動いていかなくなったので、機械を止めて、ベルトを直してから機械を動かすように指示し、動き始めたときまだ手が置いたままで、よけるのが遅かったため、左手の小指を負傷した。	64	7		224		1 ～ 9 人

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。